

## 絵の発達

～子どもの絵を聴いていますか？～

子どもたちは、言葉を十分しゃべれず文字も書けないうちから、絵によって自分を表現しています。絵は心を表現するためのかけがえのない手段です。見ただけでは何を描いているのかわからないという絵でも、子どもの話に耳を傾けてみてください。絵を聴くことで、思いが伝わり、子どもと心が響き合うことでしょう。

○子どもにとっての絵とは…？

大人	子ども
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 思いを表現する方法は…文章、話をする (書き言葉・話し言葉)</li><li>・ 絵は…鑑賞したり趣味で描いたりするもの。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 思いを表現する方法は…話をする・手で描く (話し言葉・絵)</li><li>・ 絵は…あそびの一つ。心を表現するためのかけがえのない手段。 絵を聴いてもらうことで、話し言葉が豊かになり、書き言葉の獲得に向かう。 考える力にも繋がる。</li></ul>

○子どもの絵の見方・育て方

★大切なこと

- ・ 子どもの気持ちに寄り添い共感すること
- ・ 描きたいときに描けるような環境を整えておくこと
- ・ 豊かで生き生きとした生活を送り、描きたくするような経験をいっぱいすること

★絵を描くために必要なこと

- ・ 手の働き      ・ イメージする力      ・ 言葉の発達
- ・ 描きたい、伝えたいという気持ち

↓

★幼児期の育ちに必要なもの

- ・ リズム運動や散歩、外遊びをして全身の運動機能の充実
- ・ 道具を使うこと（マジック、はさみ、スコップなど）
- ・ 色々な素材に触れること（砂、水、泥、紙、粘土など）
- ・ 仲間とともに遊びこむ豊かな経験

★描画活動で育てたいもの

形を描く能力（技術）ではなく

豊かに感じる心（人間的な感情、感性）

思いを伝える力（主体性、表現力）

○子どもの絵の発達

0歳～1歳 ～基礎的な力が育つ時代～

感じ分ける能力の育ち

- ・オムツの快・不快
- ・触れる、見る、聞く、しゃぶる
- ・嬉しい、楽しい、悲しいなど

運動機能の発達

- ・中心部から末端へ  
(口→肩→ひじ→手首→指先)
- ・上部から下部へ  
(口→首→胸→腹筋→腰→足)

手の動きの育ち

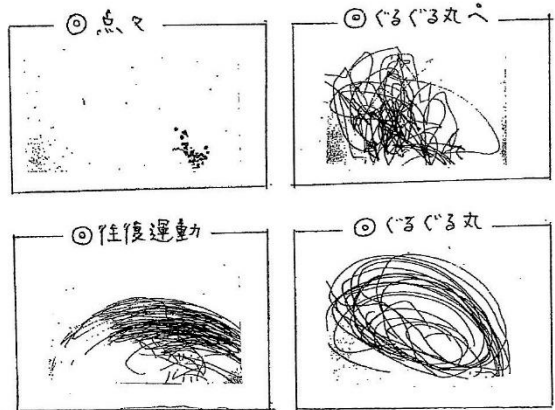
触れる、握る、つかむ、つまむ、ひっぱる、  
振る、投げる、破るなど

立つことができるようになり、両手が自由になることで両手が自由になる → 描くことができるようになる

1歳過ぎ～2歳前半 ～なぐりがきの時代～

なぐりがきの過程

- 「点々」…肩を支点とした上下運動
- 「往復運動」…肩やひじの一点を支点とし、  
腕を半径とする弧状の往復運動
- 「ぐるぐる丸」…肩とひじの協応運動



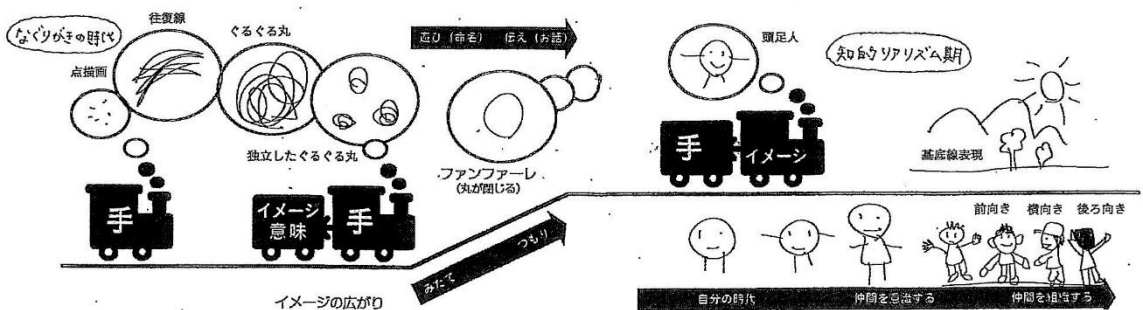
※具体的なイメージによる活動ではなく  
手の運動の一つとして五感で楽しんでいる

2歳～3歳 ～なぐりがきの時代(意味づけ期)～

意味づけ期…なぐりがき+ことば

みたて活動

- ・偶然できたぐるぐる丸を、  
胸の中の一番大事なイメージのシンボルとして  
あとから意味づけ(みたて)たもの
- ・単語による意味づけとみたてたものとの  
相互関係は薄い



## つもり活動

- ・はじめから〇〇のつもりで描くようになる
- ・話し言葉で意味づけ、なぐりがきに思いを託して語る

◎目と手の協応能力が育ち、手の操作能力が豊かに

◎丸という時間的、空間的未來の予測力

→ 「とじた丸」

◎意図した形を描く力

**3歳～8歳** ～知的リアリズム期～

目で見える真実ではなく、子どもにとって「知っている事実」を描く

### 形の単語期

- ・同一の形の繰り返し ex) 頭足人
- ・描く喜びの獲得

### カタログ期

- ・いくつかの「形の単語」の羅列
- ・形同士のつながりは表現されていない

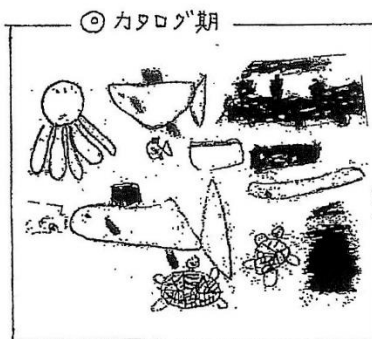
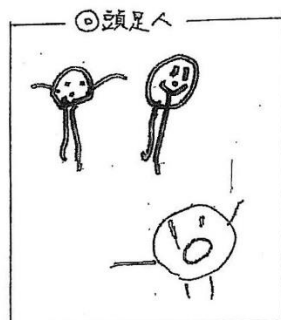
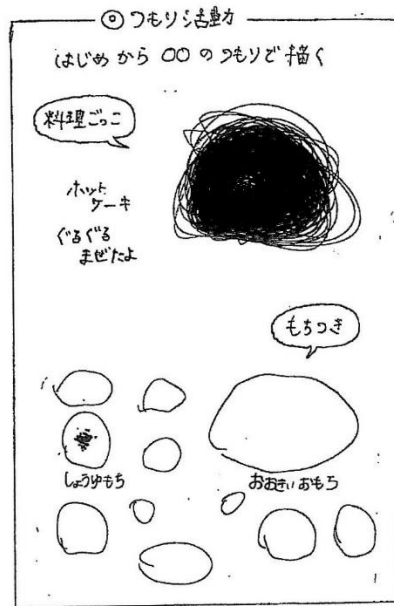
### 基底線表現

- ・空間の上下、左右の認識
- ・絵（形）で会話ができる



**9、10歳～** ～視的リアリズム期～

- ・見た通りに（実物のように）描こうとする
- ・大人と同じようなものの見方（上下、左右、垂直、水平、遠近、位置方向など）



※年齢はあくまで目安です。年齢にとらわれず、このように絵は変わっていくのだなと思いつながら、子どもの「そのとき」の絵を楽しんでください。